

# ハイデガー・フォーラムの挑戦

## 無思考の時代への抵抗

森 一郎  
東京女子大教授  
(哲学)

「哲学の終焉と思索の課題」を統一テーマに掲げ、ハイデガー・フォーラム第1回大会が9月16・17日、東京大学本郷キャンパスで開催された。90人弱の会員（聴取者）のほか、のべ140人の一般参加者には高校生の姿もあった。実行委員の一人として、盛会をうれしくまた誇りに思う。

哲学者の名を冠した学会・研究会は日本に数多くあるが、これまでマルテン・ハイデガー（1889）

1976）に関しては全国規模では存在しなかった。ハイデガーが20世紀を代表する哲学者の一人であり、彼の思索が田辺元や三木清一以来、近代日本哲學史のよき伴侶であったことを思えば、意外な事実である。

统一テーマは、ハイデガーノーの名高い論文（64年）からられた。この題名に示された問題状況は依然変わつていい。いや、「哲学」の意味ではない。哲學の意味専門研究組織にとどまる学界は、たんなる哲学者の一人として、盛会をうれしくまた誇りに思う。

ハイデガーノーは、たんなる哲学者の名を冠した学会・研究会は日本に数多くあるが、これまでマルテン・ハイデガー（1889）

トクにならうがなるまいが、考えたくなる欲望。「そもそもXとは？」といふ問い合わせに答へるときの、うすくほどの快感。結論の出ない議論にうつづを抜かすことの贅沢な喜び。

ハイデガーノーの名高い論文（64年）からられた。この題名に示された問題状況は依然変わつていい。いや、「哲学」の意味ではない。哲學の意味専門研究組織にとどまる学界は、たんなる哲学者の一人として、盛会をうれしくまた誇りに思う。

ハイデガーノーは、たんなる哲学者の名を冠した学会・研究会は日本に数多くあるが、これまでマルテン・ハイデガー（1889）

このフォーラムが、ものをしつこく考へ続ける阿呆どこのフォーラムが、ものをしつこく考へ続ける阿呆どもの廣場として、無思考の時代へのささやかな抵抗の拠点となればと願う。反省点は多く目標への道はなお

内部のリストラ問題にどうまらない。ものを考へても何の役にも立たないし、健康にも悪いからやめとけと大人が若者に勧告する時代なのである。思考をめぐる殺伐たる現状から、われわれは出発している。

このだけは確信している。ハイデガーノーの普段の活動は、主にメーリングリストによる（ホームページは）

http://www.shujitsu.ac.jp/shigaku/hf/index.htm）。第2回大会は来年9月22・23日に、京都大にて開催予定。統一テーマは「時間と存在」、特集は

「アリストテレス＝ハイデ

ガーと古代ギリシア」。

このだけは確信している。ハイデガーノーの普段の活動は、主にメーリングリストによる（ホームページは）

「アリストテレス＝ハイデ

ガーノーと古代ギリシア」。

◎ 朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。  
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。